

平成 2 7 年
(2015)

あわら市観光白書

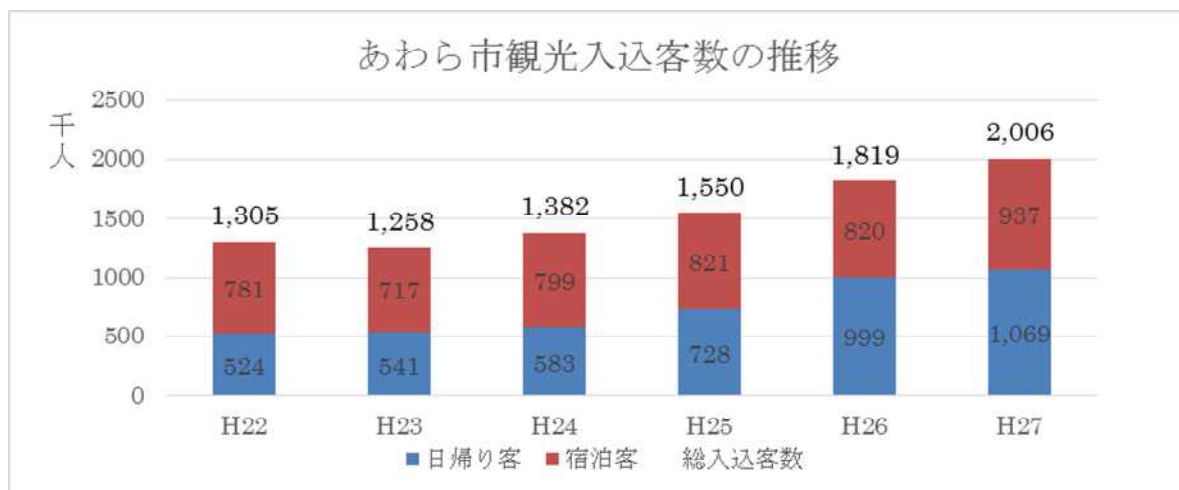
平成 2 8 年 2 月

あわら市観光商工課

平成27年あわら市観光白書

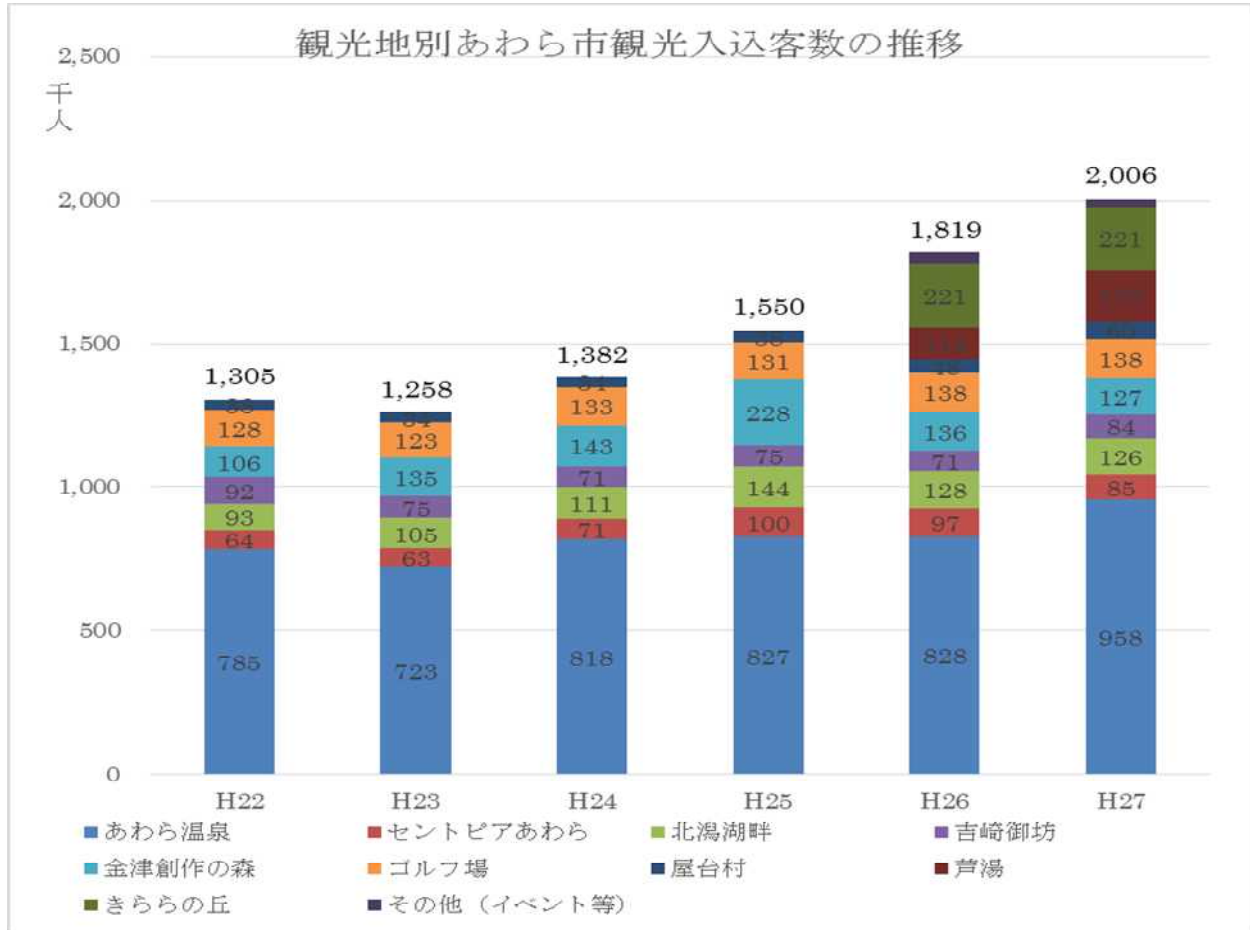
1 平成27年実績

平成27年1月から12月までの1年間にあわら市を訪れた観光客は、2,005,900人(対前年比186,700人、10.3%の増)で、20年ぶりに200万人を突破した。このうち宿泊客は936,600人(同116,600人、14.2%の増)、日帰り客は1,069,300人(同70,100人、7%の増)で、特に日帰り客は過去最高を記録した。



観光地別観光客数

観光地別では、福井県随一の温泉観光地であるあわら温泉の957,700人が最も多く、次いで農産物直売所きららの丘の221,400人、芦湯179,500人、ゴルフ場138,000人、金津創作の森127,000人、北潟湖畔126,000人、その他（セントピアあわら、吉崎御坊等）256,300人となっている。あわら温泉の入込客も平成23年以降順調に増加してきたが、27年は大幅な増加となった。



発地別観光客数

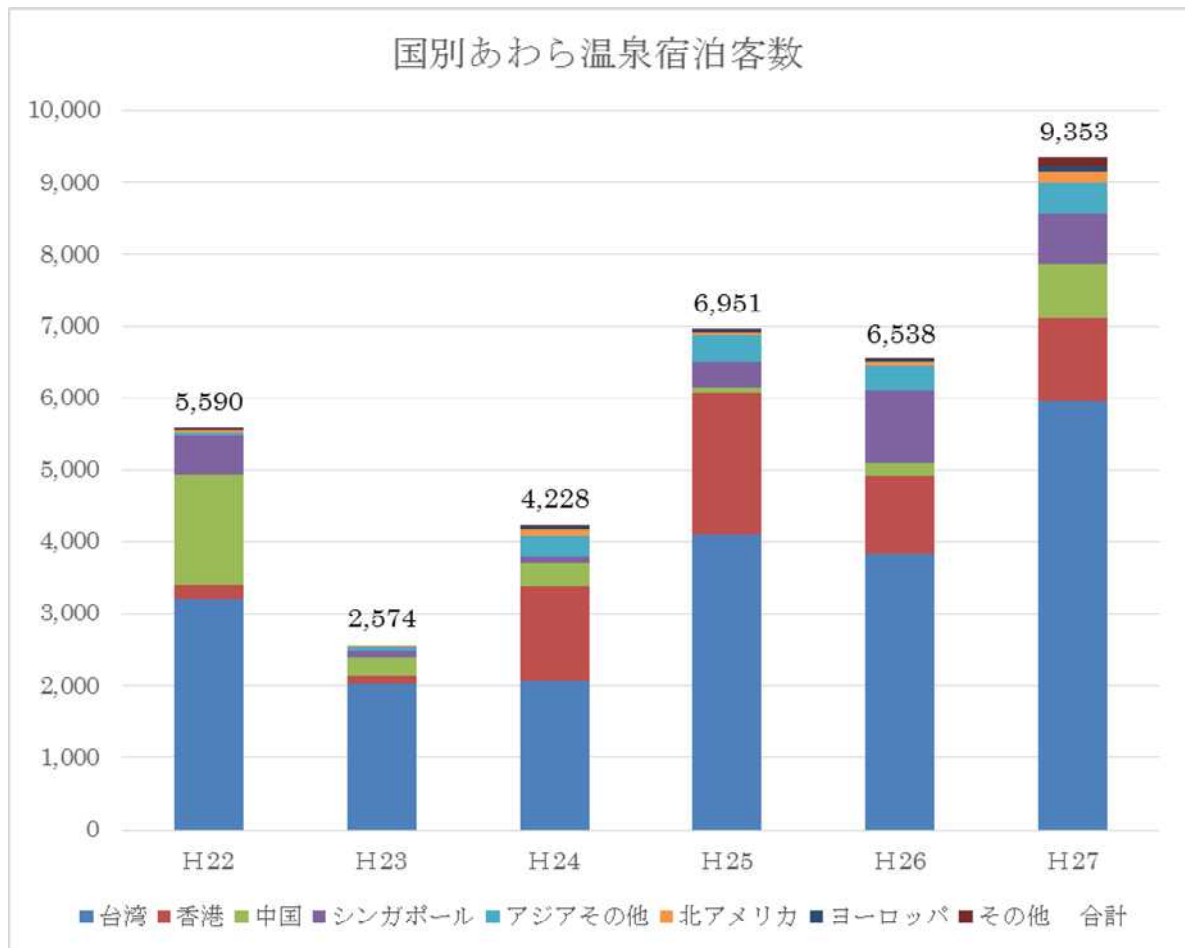
発地別内訳で見ると、県内客は50.1%の1,005,200人、県外客は49.9%の1,000,700人となり、おおむね半々に分かれています。

県外客の内訳では、あわら温泉が「関西の奥座敷」といわれるように、関西方面（ 1 ）からの観光客が390,000人（県外客の39%）と最も多く、次いで中京方面（ 2 ）の207,600人、北陸（石川・富山）方面の174,500人、関東方面の144,200人の順となり、関西・中京方面からの観光客が県外客全体の60%を占めている。

一方、外国人観光客は、昨年わが国には過去最高の1,900万人が訪れたが、あわら温泉の外国人宿泊者は9,400人と、前年に比較して増加はしているものの、まだまだ少数であるのが現状である。国・地域の内訳では、台湾からの観光客が最も多く、次いで香港、中国とアジアからの観光客が高い割合を占めている。

- （ 1 ） 関西方面とは、大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山の6県
- （ 2 ） 中京方面とは、愛知・岐阜・三重・静岡の4県

	台湾	香港	中国	シンガポール	アジアその他	北アメリカ	ヨーロッパ	その他	合計
H22	3,202	200	1,533	549	38	37	19	12	5,590
H23	2,028	117	269	84	54	22	0	0	2,574
H24	2,070	1,320	324	75	283	90	61	5	4,228
H25	4,103	1,980	70	356	369	35	37	1	6,951
H26	3,824	1,085	180	1,017	349	55	23	5	6,538
H27	5,951	1,158	756	708	415	160	72	133	9,353

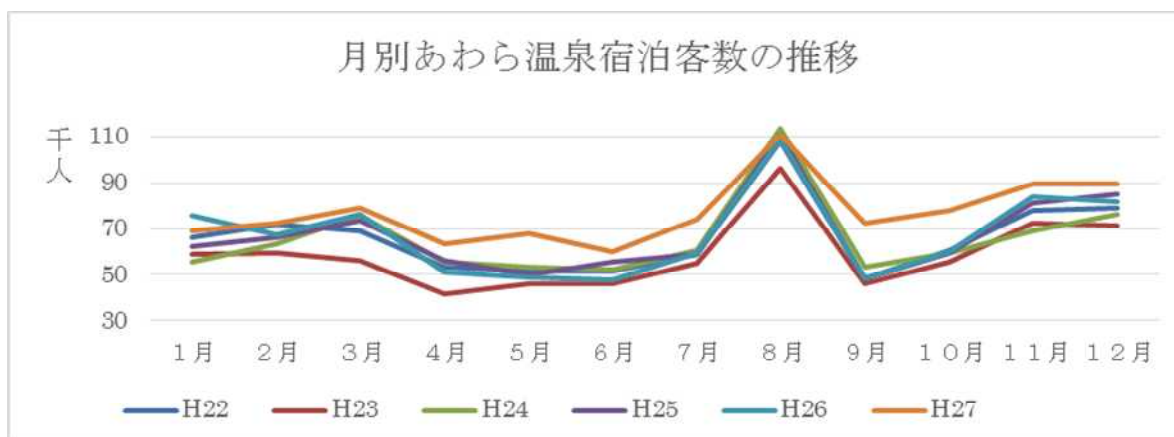
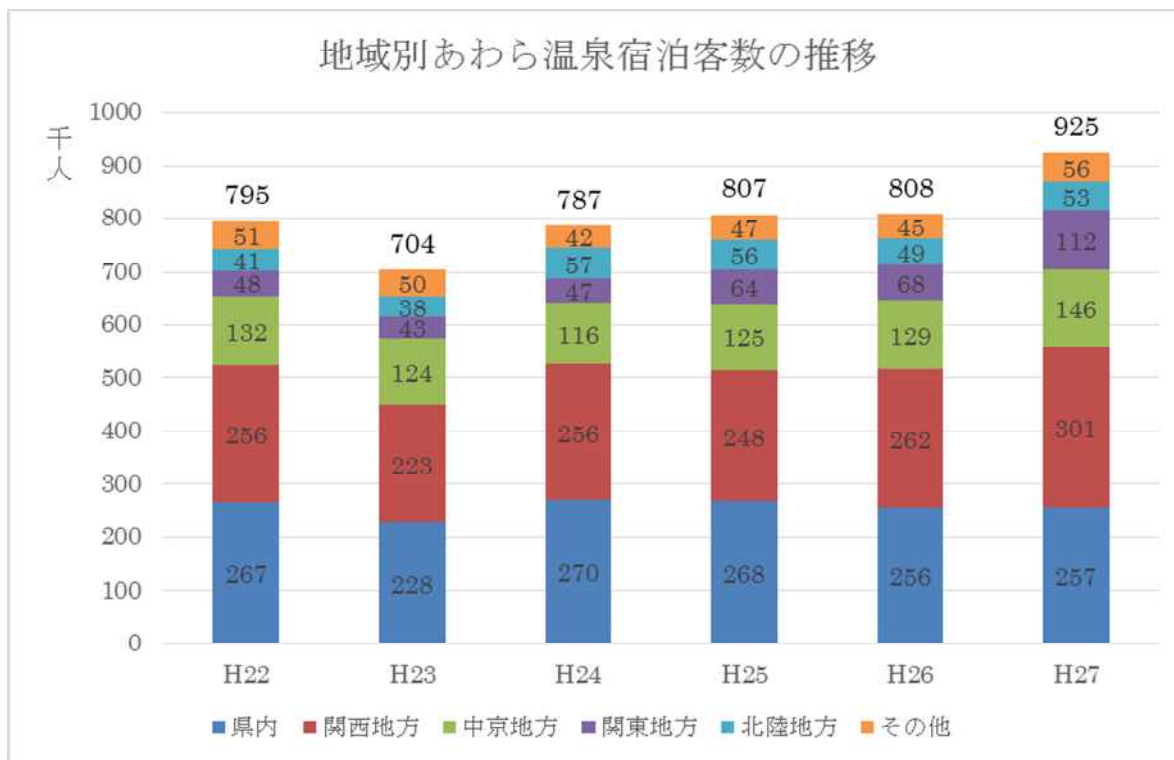


2 平成26年との比較

あわら温泉宿泊客発地別内訳の変化

あわら温泉の宿泊客は924,600人で、前年より14.4%の増加となった。その内訳を見ると、県内や北陸からの宿泊客がほぼ前年並みであるのに対し、関東からの宿泊客が65.4%増加。次いで関西、中京からの宿泊客も増加したことが全体の底上げにつながっている。これは、平成27年3月に北陸新幹線が金沢まで開業し、首都圏から多くの観光客が北陸を訪れたこと、DCをはじめとする全国的な北陸誘客キャンペーンによって、注目が北陸に集まったことなどが要因と考えられる。

また、月別に見ると、1月は年始の悪天候による予約のキャンセルなどで前年割れしたものの、その後は好調で、特に北陸新幹線金沢開業以降は、稼働率が高い夏休みの期間以外にも、年間を通して高い値で推移している。



日帰り客数増加

日帰り客の総数は、前年比70,100人、7%増の1,069,300人と過去最高を記録した。セントピアあわらが修理のため臨時休業したことによる利用者の減少があったものの、JR芦原温泉駅西口のαキューブや吉崎の越前加賀県境の館などの整備による施設の充実に加え、130日間に及ぶあわら温泉開湯130周年祭やちはやふるweek in あわらなど多彩なイベントの展開が奏功したものと考えられる。

総合的評価

観光地ごとの状況は以上のとおりであるが、あわら市全体で見ると、北陸新幹線の金沢開業が主に関東圏からの観光客の増加につながり、JR各社や旅行会社などによる全国的な北陸誘客キャンペーンとこれとタイアップして行ってきたプロモーション活動が、あわら市の知名度を向上させ、関西圏をはじめとする全国からの観光客の増加へと結び付いたものと考えられる。

3 今後の対応

昨年3月の北陸新幹線金沢開業以降、北陸には全国から注目が集まり、多くの観光客が訪れることとなった。その追い風を受け、あわら市でも観光客入込数が増加したが、平成28年3月の北海道新幹線函館開業後は、その視線の一部が北海道にシフトすることも予想される。

しかしながら、中長期的に見ると、平成30年には福井国体の開催、平成35年には北陸新幹線の敦賀開業が決定しており、観光入込客増加の要因もまだ残されている。さらに、東京オリンピックといったビッグイベントも平成32年に控えており、インバウンドの可能性にも大いに期待できる。

「あわら温泉」という県内随一の温泉地を有するあわら市としては、引き続き、観光産業と他の産業との連携や、地域のブランド化を図るとともに、広域的な観光戦略も練りながら、魅力ある観光地づくりとさらなる地域の活性化を目指していく。

あわら市の対応

全国的なイメージアップを図り、これを維持するため、映画「利休にたずねよ」や「海難1890」などの田中光敏監督が手掛けた観光プロモーションビデオによるPRを継続するとともに、平成28年3月・4月に実写版映画が公開される「ちはやふる」とのコラボレーションイベントの開催などの取り組みを進める。

一方、芦原温泉街やJR芦原温泉駅周辺においては、芦湯やαキューブ等のにぎわいの拠点を生かした各種イベントやキャンペーン企画等を展開しながら、人の流れと回遊性の創出に努めるとともに、各主要拠点から坂井北部丘陵地や吉崎御坊、金津創作の森などの観光スポットへの二次交通の整備と充実を図る。

また、観光客の消費動向やニーズ、満足度などのマーケティング調査の分析結果をもとに、地域のさまざまな事業者と連携を図りながら、魅力ある高付加価値商品や着地型旅行商品を作り出し、売り込んでいくとともに、必要な人材の育成に取り組むこととする。

広域連携

広域的な観光戦略では、「越前加賀広域観光推進協議会」や「越前加賀宗教文化街道推進協議会」、「福井坂井奥越広域観光圏推進協議会」「芦原温泉駅ブロック観光開発協議会」等を通じて、近隣市町と連携した情報発信や誘客事業を実施している。

各市町の強みである観光素材を生かし、交通アクセスなどを整備して結びつけることで、より魅力あるエリアとしての情報発信を行っていくとともに、エリア内への誘客を図っていく。

また、あわら市と同様に「ちはやふる」の聖地である東京都府中市、滋賀県大津市とも広域連携を図り、同じコンテンツテーマのもと、誘客キャンペーンを実施し、全国的なPRを展開していく。

インバウンド推進事業

今後さらに増加が見込まれる訪日外国人観光客の誘致に向けては、「越前加賀インバウンド推進機構（仮称）」や「福井坂井奥越広域観光圏推進協議会」を通じて、現地におけるPR活動やイベント出展等を実施し、主に台湾など東・東南

アジア方面からの誘客を図る。

また、世界中から選手や観客が訪れる東京オリンピックを視野に入れ、パンフレットやWEBページ、プロモーションビデオの多言語化を実施するとともに、観光主要拠点のwifiの整備、観光案内所における外国人の対応の充実など、受け入れ体制の強化に取り組む。